



学会の挑戦

■ DU Zide (杜子徳)

NGO は社会における特定の役割を担う

学会は NGO である。学会が行えることはたくさんある。専門家が新しいアイデアや、技術、新しいメカニズムについて情報交換する機会を作ること、優れたメンバや専門家を奨励し、彼らが人類により多く貢献するよう激励すること、成果を評価すること、学術倫理規定を作ること、政府に助言を与えることなどが挙げられる。

しかし、より多くの専門家を学会にひきつけるのは重要であるが難しい。学会は、専門家が情報共有し、発信や互いに助け合うためのプラットフォームになることができる。サービスはもちろん、より重要なのはメンバシップの認識であり、学会のミッション、ビジョン、価値観、文化、体系、活動がそれにあたる。メンバの中には、サービスを得るためだけでなく、貢献するために参加する人もいる。そのため、メンバは学会を代表すべきであり、学会をプロモーションし、貢献することを切望しているものである。学会が活力を得るには、偉大な価値観や信念、適切な活動、メンバにその組織の信念と価値を増進する遺伝子、ビジネスモデルなどの要素が必要である。

学会の挑戦

- 論文指向か問題指向か？ 論文数はほぼ研究者を評価するための目安とはなっているが、それが本当に重要なものなのか？ 研究者は論文指向から問題指向に転換することができ

■ DU Zide
Secretary General of the CCF

DU Zide has been taking the position of secretary general of China Computer Federation since 2004, and the same time, he, as a voluntary person, is also secretary general of Committee of Information and Communication Committee, World Federation of Engineering Organizations. He was the first President of International Olympiad in Informatics 2005-2008.



るのか？ それに対し学会はどのようなルールを作るべきなのか？

- 言語の障壁はあるか？ 今日では英語が情報交換するための共通言語であり、非英語圏の人々は不利な立場に立たされている。本来英語はそれほど重要ではなく、新しいアイデアを持っているということのほうがはるかに重要である。言語が発明やイノベーションの障壁であってはならない。
- 産業は（情報系の）学会の一部であるべきか？ そうだと思う。産業からの参加がなければ学会は完全ではない。そのため、企業からの技術者や実務家を増やすことが必要である。それらの人々の要望を満たすことが重要な課題である。
- どのようにすべてのメンバを活躍させるか？ 学会は会員の活躍、プロモーション、相互理解、より大きな評判を得られるために、十分な機会を提供しなければならない。そのためには会員を評価するプラットフォームが不可欠である。

過去 12 年の間、CCF（中国コンピュータ学会）は、従来の体系を改善し新しいものを作ってきた。CCF は大いに進歩したが解決すべき問題がまだたくさんある。これまで、CCF は情報処理学会、IEEE CS、ACM、KIISE などの関連学会と積極的に協力してきた。特に、情報処理学会とは協力覚書を締結しており、両学会が互いに学び、互いに助け合うことができるものと信じている。

